



本日はよくお参り下さいました

秋らしい風が吹くようになりましたが、皆さまいかがお過ごしですか。先月例大祭が無事に行われました。氏子会の皆さま、ご寄付を頂きました皆さま、また御参詣の皆さまのご協力に厚く御礼申し上げます。さて、今月はお彼岸の月です。この辺りは7月にお盆行事が行われますが、ひと月空いてまたすぐに祖霊祭祀を行います。こうしてみると、春、夏、秋、冬と私達は祖先や神仏にお参りを欠かすことがありません。お彼岸やお盆、お正月など、その行事はカレンダーにも記載されています。日本人は宗教に属している自覚があまりないだけで実はとても信心深いのだと思います。できれば神さまにほめられるような生活を送りたいものですね。今月も皆さまのご無事をお祈り申し上げます。権禰宜 道子



9月

1日・15日 月次祭(つきなみさい) 皇室の弥栄と国家安泰、氏子崇敬者並に社会の幸福と平和を祈ります。

7日 白露(はくろ) 白露は「しらつゆ」の意で、この頃、秋気も本格的に加わり、野草に宿るしらつゆが、秋の趣をひとしお感じさせます。

18日 敬老の日

「多年にわたり、社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う」日。



20日 彼岸入り

23日 秋分の日

26日 彼岸明け

23日は、秋の彼岸の中日で、祖先を敬い、亡くなった人の御霊を偲ぶ日です。彼岸は日本独特のもので、おはぎなどを供え、墓参りをします。日本古来の祖先崇拝の習慣が、もともとになっていると言われています。

23日 秋季皇霊祭(しゅうきこうれいさい)

もと祝祭日の中の大祭日の一つ。秋分の日に宮中の皇霊殿で行われる皇室の大祭で、天皇陛下御自ら歴代の天皇・皇后・皇族など皇祖の神霊を祀る儀式。現在は「秋分の日」として国民の祝日になっています。

天神さまの豆知識

— お神酒(みき)とは —

神事において、神酒(みき)は欠かすことのできない飲み物です。酒は米から醸造されることから、神に供える神饌のなかでも特に重要視されてきました。伊勢の神宮など、由緒ある社のなかには、境内に酒殿を設け、神酒を醸造しているところもあります。

また、神に捧げた神酒を、人がお下がりとしていただくことで、神と人とを結びつけると考えられました。神前結婚式における三三九度の儀礼や、親族固めの盃などで神酒が用いられるように、人と人を結びつける働きも担っているのです。

お酒は、気温や湿度に大きく左右されるため、同じ製法でも毎年質が異なります。古代の人々は、そこに神の力を感じ、酒は神が司るものだと考えました。日本神話によると、木花開耶媛命(このはなさくやひめのみこと)が、狭名田(さなだ)の稲でつくった天甜酒(あまのたむけざけ)が酒の始まりだとされています。また、各地の酒蔵では、「松尾様(まつのおさま)」という神を祀っているところが多くあります。これは京都の松尾大社にある湧き水「亀井(かめのい)の水」を醸造時に混ぜると酒が腐らないと伝えられていることにちなんでいます。

今月の言葉

『「信」は』

神道の本質である』

「信」とは、まっすぐに伸びた心で言葉や約束をどこまでも貫くことである。ゆえに神さまは、約束を違えて人を騙す者や、心の曲がった者の供物は受け入れない。昔の日本人は食べ物を分け合い、共に食することで互いを信じあう証とした。神さまと同じく、人も「信」のない者のもてなしは好まない。人の口から出る言葉は言葉であるから、口に入れる物は命にかかわるからだ。不信者となれる者が発する言葉や提供する食べ物喜びはしない。参考文献『神道のことば』武光誠監修河出書房発行

また大和の大神(おおみわ)神社は酒造の神として、各地の酒蔵から信仰され、新酒ができると、神社から杉玉(すぎだま)を受けて店先に飾る風習が伝わります。これは新酒が完成した合図を意味します。参考文献『神道としたり事典』茂木貞純監修 二〇一四年(株) P H P 研究所 発行



杉玉(すぎだま)